

21 世紀 COE プログラム「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」

Establishment of World Organization for Kambun Studies

江戸明治漢詩文書目

2006 年 3 月

二松学舎大学 21 世紀 COE プログラム

はしがき

本学のCOEプログラムが掲げる「日本漢文学研究」のもつ意義は、「日本学研究の言語的基礎に漢字・漢文を位置づける」ことに集約される、と私は考える。一例として言えば、日本における漢字・漢語の使われ方とその変遷を知るための十分な辞書、真の意味での「漢和辞典」がない。この現状を打開しなければならない。

古来、日本人の「漢文」については中国文化の側から見て日本的歪曲のすがた（和習）が強調されたが、我々はむしろその歪曲と歴史的変遷を、日本語文の史料としてあるがままに観察したいのである。これは、言うまでもなく中国学・中国語学における漢字・漢語とは別の文化現象である。そして、日本語文表記が「漢字かな混じり」である限り、漢字・漢語の使われ方とその変遷を知ることは、単に過去の問題にとどまらず、現代における日本語の研究と教育の問題に直結し、日本学研究の国際化の潮流のただなかにあって、今日的な急務に属する。

そこでなぜ、ここに「漢詩文」なのか。上述の理由から、本学COEプログラムの調査研究の対象は、日本語文におけるあらゆる漢字漢文文献であって、文藝や思想に限るものではなく、医書・仏書・楽書等もこれに含まれる。しかし、その対象の広がりをはたかに具体化して提示するかはなかなか困難である。文体の違いを反映した目録が完備していない以上、それには各分野ごとの調査結果を蓄積していくほかになく、いま、研究班ごとに鋭意研鑽を重ねている。その一方で、従来明らかに漢字漢文文献として認識されてきた「漢詩漢文」と「漢学儒学」を放置することは許されない、と考えたからである。

江戸から明治にかけての漢詩文の書籍資料の膨大さは、先行研究もあって当初から予想されたが、編纂作業をとおして明治期資料の網羅の困難さを再確認させられた。ここに収録した明治期資料は、ほとんど国会図書館所蔵資料のみであるが、それでもこの多きにのぼる。

全データ	1 2 2 1 4 件
明治期のみ	2 1 2 2 件
編著者名	6 2 3 1 件

今日の日本語の祖形をなす新しい日本語が形成されていく一方で、漢詩漢文による言語表現がこれほど多く現れた、その意義をどのように考えるべきであろうか。

問題のありかを調整するために、ともかく資料を網羅して時系列で並べてみた。それが本報告書の「第一部」である。「漢詩文」と題しながら、江戸期の狂詩狂文や明治期の漢文読本などまで含むこと等々、現時点での問題個所はそのままになっているが、なおかつ、かかる基礎台帳作りが今後の計画的実地調査のためには不可欠のものであった。

次の段階としては、原資料の実地調査により、書物そのものの内容に立ち入った書誌「解題」の作成である。別集・総集の区別や序跋者・書肆の情報のほか、追悼・寿賀、紀行・地域、詩画・法帖など、各資料に特徴的な点を「備考」として蓄積していく計画である。

一方で、現在、国文学研究資料館において鈴木淳教授を研究代表者とする、「日本古典籍分類概念の確立と古典籍総合目録データベースにおける分類化促進」の研究プロジェクトが進行中であり（2004~2007年度）、我々は漢文文献に関して協力関係にある。上記のように実地調査によって蓄積した情報は、データベースの件名検索・キーワード検索の際に活用できる、と考えている。

なお、本目録は、おもに新井洋子（本学文学部非常勤助手）と筆者が編集作業に当たり、適時、揖斐高・竹下悦子の両事業推進担当者、およびロバート キャンベル・上地宏一の両研究協力者と、協議しつつ作成したものである。

（近世近代漢文班主任 町 泉寿郎 2006.03.25）

※ 入谷仙介「地方図書館所蔵 日本人漢詩文集 目録稿」上中下（『島根大学法文学部紀要（文学科編）』7-1・8-1・9-1、1984/85/86）。

三浦叶「明治年間における漢詩文集年表」（『明治漢文学史』汲古書院 1998）

相田満「和漢古典学のオントロジの資源化のために—『国書総目録』の分類について—」（『和漢古典学のオントロジ2』2005）。

凡 例

- 一 本書は、江戸から明治にかけての日本人による、やや広い意味での「漢詩文」の書籍を対象とした目録である。上限は政治史と文化史の差異を勘案し、江戸開幕をもってとせず慶長元年（1596）を開始年とした。下限は明治45年（大正元年1912）とした。
 - 一 江戸時代のデータについては、岩波書店『国書総目録 補訂版』（1989～1991）をもとに、国文学研究資料館が作成し、同館のホームページに公開されている「国書基本データベース（著作編）」（以下「国書DB」と略称）を用いて、分類項目が漢文・漢文集・漢詩・漢詩集・漢詩文・詩文・詩文集・狂詩・狂文・狂詩文・詩集に該当するものを検索し、そのデータを利用した。
 - 一 明治時代のデータについては、国立国会図書館に所蔵する資料を同館ホームページに公開されているデータベース（以下「国会DB」と略称）から、日本十進分類法で漢詩文・日本漢詩文（919）に分類されるもののうち、慶応4年（1868）～大正元年（明治45年1912）に出版されたものを検索し、そのデータを利用した。
 - 一 本書は、第一部の「江戸明治漢詩文刊行年表」と、第二部の「江戸明治漢詩文書目」（50音順）と「江戸明治漢詩文書目」を編著者別（50音順）に再編した「編著者書目」とに分かれる。
 - 一 刊行年表を作成するにあたり、国書DBの検索結果、年代が明確であるものをすべて『国書総目録』と対照し、刊行年・成立年が確定できるもののみを年表化した。例えば、写本については、内容の成立と書本の成立が同時であるかどうか判断できないため、これを除外した。ただし、成立年がわかる自筆稿本については、これを収録した。国会DBの検索結果は、そのまま年代順に組んで利用した。
 - 一 重版・後印の問題については、『国書総目録』からは正確な版本書誌を得ることが困難なため、同一書題のうち刊行年の異なるものを、時代順に国書DBのIDNoに枝番号として書き加えた。
- 例：慶長2 1597 錦繡段 KINNSHUUDANN 天竺竜沢 編一冊 古活字 漢詩 23132-1
元和2 1616 錦繡段 KINNSHUUDANN 天竺竜沢 編一冊 刊 漢詩 23132-2
- 一 書目作成に際して、国書DB・国会DBの検索結果を総合して、それぞれの書本にIDNoを、S00001、S00002、……と付した。
 - 一 年表の各書名、書名目録の各書名、および編著者名目録の人名に付したローマ字の表記法については、上記の『錦繡段』の例のように、かなをローマ字で入力する際の表記方法によっている。

江戸明治漢詩文刊行年表

成立	西暦	書名漢字	書名ローマ字	作者名	巻冊	刊・稿	分類	ID	注記
慶長元	1596								
	2	錦繡段	KINNSHUUDANN	天隨竜沢編	一冊		古活字 漢詩	23132-1	
	3								
	4								
	5								
	6								
	7								
	8								
	9								
	10								
	11								
	12								
	13								
	14								
	15								
	16								
	17								
	18								
	19								
元和元	1615								
	2	錦繡段	KINNSHUUDANN	天隨竜沢編	一冊	刊	漢詩	23132-2	
	3								
	4								
	5								
	6	三体詩絶句鈔	SANNTAISHIZEKKUSHO !!	塩瀬宗和	六巻六冊	刊	漢詩	1175093	
7									
8									
9									
寛永元	1624								
	2								
	3								
	4								
	5								
	6	桂光院較詩	KEIKOUINNBANNSHI	灰屋紹益[佐野紹益]	一軸	稿	漢詩	914692	
		桂光院較詩並序	KEIKOUINNBANNSHINAR ABINJO	以心崇伝	一軸	稿	漢詩	914705	
	7								
	8	錦繡段	KINNSHUUDANN	天隨竜沢編	一冊	刊	漢詩	23132-3	
	9								
10									
11	錦繡段	KINNSHUUDANN	天隨竜沢編	一冊	刊	漢詩	23132-4		
12									
13									
14									
15									
16									
17									
18	錦繡段	KINNSHUUDANN	天隨竜沢編	一冊	刊	漢詩	23132-5		
19	自論記	JIRONNKI	前田光高	一冊	稿	漢文	1278575		
20									
正保元	1644								
	2	錦繡段	KINNSHUUDANN	天隨竜沢編	一冊	刊	漢詩	23132-6	
		仏祖贊	BUSSOSANN	沢庵宗彭	二巻一冊	稿	漢詩	1671972	
	3	唐詩絶句贊箋	TOUSHIZEKKUSANNSEN N		三冊	刊	漢詩	1473310	
4									